

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	里庄町立里庄中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	23
生徒数	109	113	106	2	330	

研究の概要

1. 研究主題

「基本的な生活能力の定着と、楽しく学べる授業の定着をめざして」
 ～読み・書き・計算と、わかる授業のための指導方法・指導体制の工夫や新しい教材の開発を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1・3年生・英語：少人数指導
 （1年生では、はじめて学習する教科であるため、理解度に差が出ないようにするため）
 （3年生では、習熟度に応じた学習を展開することにより、理解度の格差を解消するため）
 1・3年生・数学：TT指導
 （1年生が、生徒の理解度に格差が生じやすい教科であるため）
 （3年生では、個に応じた指導により、理解度の格差を解消するため）
 3年生・選択数学：習熟度別指導
 （習熟度に応じた学習の展開を図ることにより、意欲的に学習に取り組ませるため）
 1～3年生・上記以外の教科：一斉指導、グループ指導・個別指導

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ
 「確かな学力の向上」を図るため、個に応じた指導方法・指導体制や新しい教材の開発の研究
 研究にあたって
 学力向上フロンティア事業において、その趣旨には「確かな学力の向上」ということが示されている。生徒の学力を向上させるためには、生徒自身の「学ぶ意欲」を育てることが必要である。その「学ぶ意欲」を育てるためには、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の効果的かつバランスのとれた取組みが必要であることは言うまでもないが、本校の学力向上フロンティア事業においては、その趣旨を踏まえ、教科に焦点を絞り研究を進めていくこととした。

研究の見通し（仮説）
 （1）教科において「確かな学力の向上」を図るためには「基礎・基本の定着」が必要である。そのためには、各教科で「基礎・基本の規準」を明確にし、その定着を図るための仕組みを考えることが大切であり、その仕組みを考えることこそが、指導方法・指導体制の工夫改善であり新しい教材の開発である。つまり、わかる授業を基本とし、各教科で工夫を凝らした教材や単元の開発を行うことで「基礎・基本の定着」が図れると考えた。
 （2）次に、「研修会への積極的参加」があげられる。教師自身が教科の指導方法について研究を深め、工夫を凝らした授業を実践することにより生徒自身の「学ぶ意欲」が高まると考えた。そして、こうした取組みを全ての教師が行うことにより、学校全体の「確かな学力の向上」が図

られると考えた。

- (3) また一方では、「授業時間数の確保」があげられる。これは、生徒たちの「確かな学力の向上」を図るための根幹をなすものであり、研究を進めていく上で最も重要な課題である。したがって、本年度の教育課程を一年間の実践を通して総括し、その成果と課題を明確にすることで、より効果的な教育課程が作成できると考えた。

研究の内容・方法

- ・ 1・3年生・英語：少人数指導
- (1年生では、はじめて学習する教科であるため、理解度に差が出ないようにするため)
- (3年生では、習熟度に応じた学習を展開することにより、理解度の格差を解消するため)

1年：2名の教師が、1クラスを2つの均質な集団に分けて指導する。
3年：2名の教師が、1クラスを習熟度による2つの集団に分けて指導する。

- ・ 1・3年生・数学：TT指導
- (1年生が、生徒の理解度に格差が生じやすい教科であるため)
- (3年生では、個に応じた指導により、理解度の格差を解消するため)

1・3年とも、1つのクラスに2名の教師がつき、主として1名が全体的な指導を担当し、もう1名が個別指導や演習問題等の支援に当たり指導する。

- ・ 3年生・選択数学：習熟度別指導
- (習熟度に応じた学習の展開を図ることにより、意欲的に学習に取り組ませるため)

2クラスを習熟度別に3つのコースに分け、3名の教師で指導する。

- ・ 1～3年生・上記以外の教科：一斉指導、グループ指導・個別指導

「基礎・基本の定着」を図るための教材の開発や指導方法・指導体制の研究

平成
15
年度

テーマ

「基本的な生活能力の定着と、楽しく学べる授業の確立をめざして」
～読み・書き・計算と、わかる授業のための指導方法・指導体制の工夫
や新しい教材の開発を通して～

研究テーマ設定の理由

- (1) 学校教育の今日的課題から
完全学校週5日制がスタートし、新しい学習指導要領では、個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本を確実に定着し、それをもとに、自ら学び自ら考える力など、21世紀に通用する「生きる力」の育成を目指すことが示されている。「生きる力」の育成に向かって、それを支える教科や、またその教科を支える基本的な力の育成が大切であると考えた。
- (2) 学力向上フロンティアスクールの趣旨から
学力向上フロンティアスクールでは、新しい学習指導要領を踏まえ、理解や習熟の程度に応じた指導の実施
小学校における教員の得意分野を生かした教科担任制の導入
など、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実に
図るための実践研究を推進することにより、「確かな学力の向上」を図ると
ある。その具体的な内容としては、
発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
がある。そこで、習熟度別の少人数指導やTTの指導などの効果的な指
導体制を取り入れた授業を展開していくことで「確かな学力」が身につくと
考えた。
- (3) 本校の教育目標から
本校の教育目標は、「豊かな心と知性を持ち、たくましく生きる生徒

の育成」である。「豊かな心」が示しているものは、柔らかな感性を持った生徒であり、「知性が意味するものは、基礎学力が定着し問題解決の能力が身に付いた生徒のことである。そこで、この教育目標を具現化するために、いわゆる、「読み」・「書き」・「計算」といった、基本的な学習能力を基盤として、基礎的・基本的能力の定着を図る取組みが重要であると考えた。

(4) 生徒の実態から

本校の生徒は、全体的には素直で落ち着いた態度で物事に取り組むことができる。学習面でも、教師の説明を聞いたり、指示されたことに意欲的に取り組んだりすることはできるが、点数や評価を気にするため、良い評価や良い点数を取るために学習する傾向がある。そこで、それぞれの教科において、学習する目的や目標を明確に示し、それに向かって積極的に取り組める仕組みづくりを考えたり、実践したりすることにより、生徒の持つ多様な能力や可能性を引き出すことが重要であると考えた。

(5) 保護者の実態から

里庄町は、現代物理学の父とよばれた仁科博士生誕の地であり、町を上げて教育には大変熱心な土地柄である。そのため、保護者の教育に対する関心も高く、学校教育に対しても協力的である。しかし、完全週5日制のもと新しい学習指導要領が実施されるにあたり、授業時間数や学習内容が削減されることで子供たちの学力が低下するのではないかと心配している。それにともない、補習をはじめ少人数授業や習熟度別授業などきめ細かい教育を望む声が多い。そこで、保護者の不安を解消する様々な取り組みや仕組みを考え、保護者と連携しながら実践していくことが重要であると考えた。

研究の見通し

(1) 各教科において、指導方法や指導体制を工夫して学習に取り組んだり、新しい教材を開発し、それを実践することによって、生徒の学びの意欲が高まり楽しい授業が展開され、効果的に「学力の定着」を図ることができるであろう。

(2) 各教科の学習において、TT指導や少人数指導、また、習熟度別による少人数指導などの指導体制を取り入れて学習活動を行えば、個に応じた指導がより充実し、それによって生徒一人一人の学びの意欲が高まり、効果的に「学力の定着」を図ることができるであろう。

(3) 基本的な学習能力を定着させる取り組みにおいて、出題範囲を決め、全校一斉で定期的にテストを実施することにより、学級・学年間での向上心が芽生え、学校全体の「読み」「書き」「計算」といった教科を支える力の向上と定着を図ることができるであろう。

研究の内容・方法

(1) 「わかる授業」のための指導方法・指導体制の工夫や新しい教材の開発の研究の取り組み

シラバスの作成(資料1参照)

【目的】

各教科で、目指す生徒像や身につけさせたい力を明確にし、年間計画に沿って効果的な学習ができるようにする。

マトリックス表の作成(資料2参照)

【目的】

各教科の年間計画が、各観点の規準にそってバランスよく実践されているかどうかを、年間計画と評価規準の相関表によりわかりやすく確認できるようにする。

各教科での客観的データの収集と保存

【例】 評価規準をもとにした評価データ
小テスト・定期テストのデータなど

授業研究会の実施

【目的】

各教科で、指導方法や指導体制を工夫したり、新しい教材の開発したりする取り組みを通して、「わかる授業・楽しい授業」の確立を図る。

講師の先生方の支援のもとで研究を深めると共に、教師としての力量を高め、それを生徒に還元できるようにすること。

【実施方法】

年4回実施し、全ての教師が授業公開する。
 原則として創意の時間（火の6）を利用して実施する。
 原則として全員で授業参観し、講師の先生の指導や助言のもと全体研修をおこなう。

【授業研究会実施日】

第1回授業研究日	6月17日（火）
第2回授業研究日	10月14日（火）
第3回授業研究日	11月25日（火）
第4回授業研究日	1月27日（火）

【授業研究会の日程】

1校時～5校時まで45分授業、6校時は50分授業
 6校時は14：30～15：20まで

【全体会の日程】

1	開 会	15：40～15：45
2	説 明（授業者）	15：45～16：00
3	質 疑	16：00～16：20
4	指導・助言	16：20～16：50
5	閉 会	16：50～

【講 師】

岡山大学教育学部助教授 黒崎東洋郎 先生
 倉敷教育事務所学校教育課指導係長 上岡 仁 先生

(2) 「基本的な学習能力」を定着させるための取り組み
 里ちゃんテストの実施

【目 的】

「読み」「書き」「計算」といった教科を支える力の定着を図る。
 全ての生徒に向上心を持たせたり、繰り返し学習することにより学習成果が上がったりすることに気づかせる。

【実施教科】

国語科 英語科

【実施方法】

創意の時間（火の6）を利用し実施する。
 国語科～3週間に1回を原則として、出題範囲を決め定期的にテストを実施する。（年間～12回実施）
 英語科～4週間に1回を原則として、出題範囲を決め定期的にテストを実施する。（年間～10回実施）

【日 程】

14：40～14：50	テスト調べ
14：50～15：00	テスト
15：00～15：10	答え合わせ（相互採点） 回収
15：10～15：30	復 習（英語科はリスニングあり） テスト監督で集計し平均点を出す。

(3) 学力の定着度を計るための取り組み

観点別テストの実施 [校内での名称：一斉テスト] (資料3参照)

【目 的】

観点別絶対評価をもとにしたテストを実施することにより、個々の生徒や各クラス、各学年の学力の定着度を知るデータにすると共に、テスト結果を分析することにより、これからの教科指導に生かす。

【使用テスト】

観点別絶対評価問題（新学社）
 新入生テストについてはベネッセを使用（来年度は1～3学年とも新学社）

【平成15年度実施計画】

テスト名	第1回一斉テスト	第2回一斉テスト
実施期日	【1年】 4月下旬 【2・3年】 4月8・10日	【1・2年】 私立 期入試日 【3年】 2月下旬
1年生	新入生テスト(ベネッセ使用)	中1・2学期を使用
2年生	中1・3学期を使用	中2・2学期を使用
3年生	中2・3学期を使用	中3・2学期を使用

【データの処理と活用】

テスト結果のデータを各学年、各教科ごとにまとめ担当教師に配布する。(担当教師で教科部会開催までに分析しておく。)
教科部会(5教科担当者)を開き、データをもとにテスト結果を分析し各教科ごとに授業への生かし方について協議する。
協議内容を報告し共通理解すると共に、報告文書を必ず保存する。

(4) その他の取り組み

小中の連携について(里庄東西小学校との連携)

【目的】

学習内容や授業方法、授業展開の取り組みを情報交換することによりそれぞれの良さを認識し合い、お互いの授業実践の工夫改善の手立てとする。

【内容】

算数科と数学科の削減内容についての話し合い
授業実践についての意見交換
家庭での学習習慣についての話し合い
里庄町学力向上推進協議会との連携
家庭との連携について

【目的】

研究の目的を共通理解することにより、家庭との連携を深め、同じ目的、同じ歩調で生徒の指導・支援を図る。

【内容】

本年度の研究についての説明とお願い
・5月/「PTA総会」～説明とお願い
・11月/「教育の日講演会」～中学校での取り組みの説明
基本的な生活習慣の確立についての支援(学年だより、学級通信を利用)
・家庭学習の習慣
・規則正しい生活習慣など
家庭学習の習慣の定着を図るための支援(アンケート結果の報告:未実施)
里庄町「未来の会」との連携

平成16年度

テーマ: 検討中(3月初旬決定予定)

研究の見通し: 検討中(3月初旬決定予定)

研究の内容・方法

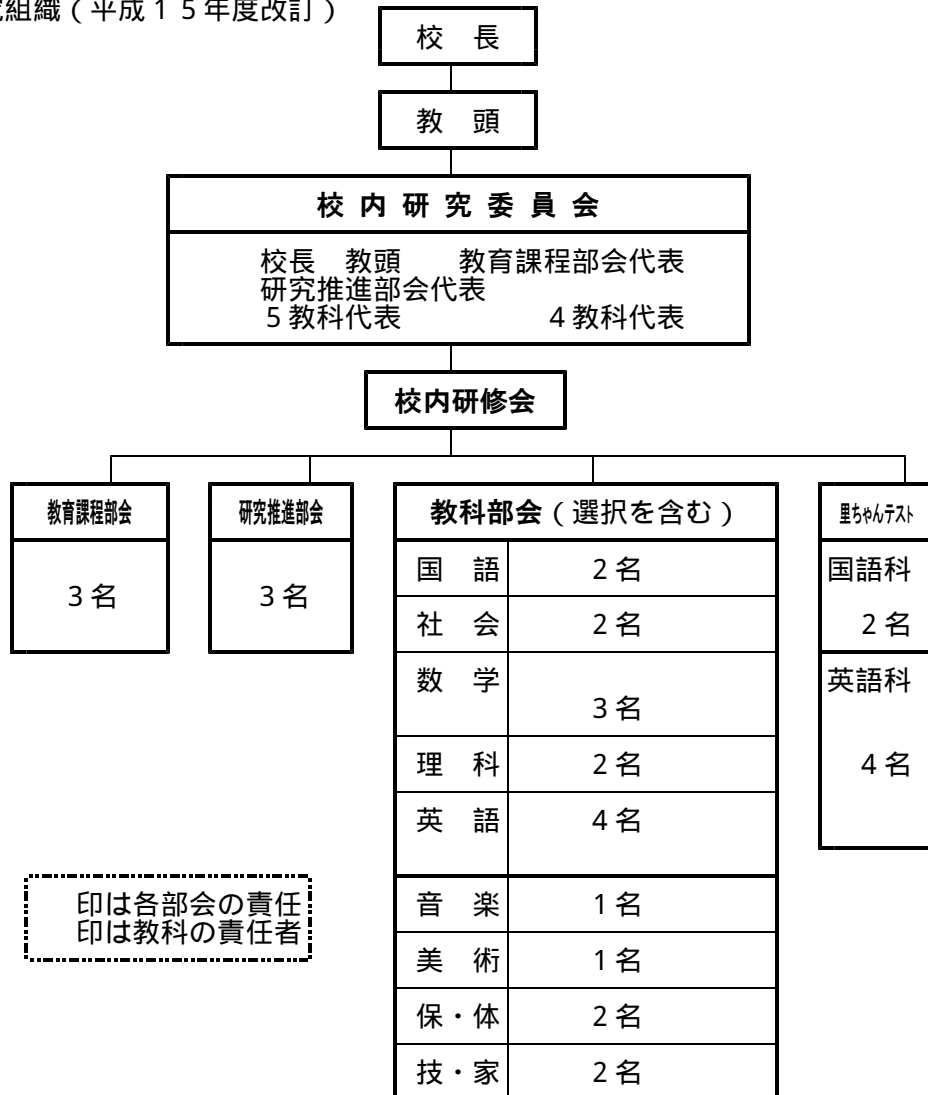
- 【内容】 確かな学力を身につけさせるため、指導方法や指導体制などの工夫や新しい教材開発を通して、個に応じた指導の実現を目指す。
- 【方法】 授業研究
一斉テストを利用した客観的データの収集と分析
シラバス・マトリックスの作成

(3) 研究推進体制

研究組織とその役割

- 校内研究委員会 . . . 研究の方針や研究の具体についての原案の検討、及び学力向上フロンティア事業の推進
中間報告書の検討
- 教科部会 . . . シラバスとマトリックスの作成
楽しく学べるための指導方法・指導体制の工夫と新しい教材の開発
研究授業の実践と研究の成果と課題のまとめ
里ちゃんテストの実施と検討（国語科・英語科）
評価を生かした指導の工夫と改善
一斉テストの分析と授業への生かし方の検討
- 教育課程部会 . . . 効果的な教育を実践するための教育課程の作成
少人数指導・TT・習熟度別授業を効果的に行うための機能的な時間割の工夫と改善など
指導案の様式についての検討
- 研究推進部会 . . . 学力向上フロンティア事業に必要な物品の購入
学力向上フロンティア事業に関する研修会参加の依頼と調整
学力向上フロンティア事業に関わる調査の作成・実施・集計・分析など
中間報告書の作成

研究組織（平成15年度改訂）



印は各部会の責任者
印は教科の責任者

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

シラバスを作成することで、各教科の目指す生徒像や身につけさせたい力を明確にすることができた。

マトリックス表を作成することで、学習指導要領にある観点別の評価規準について理解し、年間計画と各観点別の評価規準がバランスよく実践されるよう検討することができた。

わかる授業のための指導方法や指導体制の工夫や新しい教材の開発を目指して、全教員で授業研究を実践したことにより、授業に対する意識の高揚が図られた。(生徒については、授業に対するアンケートを実施する予定)

観点別絶対評価とともにしたテスト(一斉テスト)を実施することにより、授業実践の結果を、5各教科で観点別に客観的なデータとして得ることができた。(資料3参照)

一斉テストの結果から、生徒一人一人の様子や学年の傾向などが分かった。そして、それを分析することにより、授業での具体的な手立てを考える上での資料となった。

里ちゃんテストを実施することで、クラス間、学年間で切磋琢磨する姿勢が見られた。

教育の日に合わせ、学力向上フロンティアスクールの取り組みを保護者だけでなく、一般町民の方に聞いてもらったことは有意義であった。

2. 今後の課題

各教科で、目指す生徒像や身につけさせたい力を明確にしたが、その実現のための授業実践が不十分であった。

マトリックス表にある各単元ごとの観点別の評価規準と、授業研究会の指導案の学習目標の内容に整合性のないものがあった。マトリックス表を授業実践の元になるものとして捉え整合性を図る必要がある。

授業研究を通して、授業に対する意識の高揚や、授業改善は見られたが、個に応じた指導の取り組みについては不十分である。

個に応じた指導の実践にともない、個に応じた指導の里庄中学校での定義。どういふことに配慮して取り組めばよいか。それを指導案にどう表現すればよいかなどについて全職員で共通理解しなければならない。

一斉テストのデータを分析することで、各教科の課題を明確にできたが、課題解決のための授業実践が不十分であった。

里ちゃんテストも回を重ねるごとに、生徒に慣れがでてきて、やや形骸化した所が見受けられた。実施方法や実施の目的を発展的に改善する必要がある。

小学校と授業方法などについて情報交換する会を考えていたが、時間的な余裕がなく実施することができなかつた。お互いの授業実践を通して学びあう必要がある。

学力向上フロンティアスクールの取り組みについて、保護者への啓発活動が不十分であった。学力向上フロンティア便りなどの定期的な発行を考える必要がある。

研究組織をうまく機能させることができなかった。授業研究を中心に研究会を予定しているので、教科部会で十分話し合いができるような機会を設定しなければならない。

学力把握のための学校としての取組

(2)「平成15年度」年次計画の中の、『4 本年度の研究の具体』の『(3) 学力の定着を図るための取り組み』の『 観点別テストの実施』を参照。

(2)「平成15年度」年次計画の中の、『4 本年度の研究の具体』の『(2) 「基本的な能力」を定着させるための取り組み』の『 里ちゃんテストの実施』を参照。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 授業研究について 授業研究会の実施 中間報告書(2)「平成15年度」年次計画の中の、『4 本年度の研究の 具体』の『(1)「わかる授業」のための指導方法・指導体制の工夫や新しい 教材の開発の研究の取り組み』の『 授業研究会の実施』を参照。	
(2) 平成16年度研究会について	
期 日	平成16年11月12日(金)
場 所	里庄町立里庄中学校
テ - マ	3月初旬決定
対 象	教育関係者(予定)
内 容	公開授業を中心とした研究成果の発表(詳細については 検討中)
日 程	詳細については検討中
参加方法	事前に申し込み

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無